

[認知症対応型共同生活介護用]

## 調査報告概要表

作成日 2008年7月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4673200079
法人名	社会福祉法人 正栄会
事業所名	ふるさとの家 郡山
所在地 (電話番号)	鹿児島市東俣町3853 (電 話)099-298-8118
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年8月7日

## 【情報提供票より】(20年 7月 15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 8 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	12.7人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費<理美容代・おむつ代・管理費>	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		600 円	

## (4)利用者の概要( 7月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	上片平産婦人科内科・みらい歯科医院・吉田ナーシングホーム
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の高台に位置し、広い敷地にグランドゴルフが出来る芝生、利用者が栽培を楽しんでいる畑を持つホームである。開放感あふれる室内でゆっくりと穏やかな時間を過ごすとともに、周囲の関連施設や各種在宅サービス利用者との交流も盛んであり、老人会員として地域行事にも積極的に参加している。まさに「地域の中で、その人らしく生活をする」という理念を実践しているホームである。管理者及び職員は、利用者の日々の体調に配慮しながら、本人の「できること」を大切にしたケアを心がけている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価後の取り組みとして、「地域密着型サービスの理念」を新たに加え職員間での共有もなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長や老人会長をはじめ地域住民の出席があり、地域包括支援センター職員、利用者家族の出席のもと、定期的に開催されている。地域の行事や避難訓練時の支援など、それぞれの立場から意見を出してもらい運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員に対して何でも話せる雰囲気作りに努めており、職員側から声かけをして意見要望について尋ねるようにしている。家族に運営推進会議やサービス担当者会議に出席してもらい、出された意見や要望は職員間で話し合い、運営へ反映するとともにケアの向上に役立っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会、老人会に加入しており、月に一度は老人会行事に参加している。近所の方とは野菜を差し入れてもらったり、散歩時に会話をしたりと日常的に交流がある。近くの法人施設の催事への参加、地域の文化祭や運動会への出席もある。また、管理者自らが地域と積極的に関わりを持つように心がけ、実践している。

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考え「地域住民の一員としてその人らしく生活を送る」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、日々のミーティングの中で確認しあい、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会に加入しており、月に一度は老人会行事に参加している。近辺の法人施設の行事や地域の文化祭、学校の運動会等を通じて交流を図っており、近所の方とは野菜の差し入れや外出時の会話を日常的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回指摘を受けた「地域密着型サービスとしての理念」は作成されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や老人会長などの地域住民代表者が出席され、地域包括支援センター職員、利用者家族の出席もあり、それぞれの立場から意見をもらい、運営に役立っている。また、会議の運営がスムーズに行われるように管理者自らが各方面と積極的に関わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへの訪問・相談や介護保険担当課との連携を通して、ともに問題解決に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	二ヶ月に一度のホーム便りや法人新聞を通して、利用者の暮らしぶりや健康状態を知らせている。金銭管理についても毎月書面をもって報告しており、面会時には随時状況を話すように心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には意見や苦情を訴えやすい雰囲気作りに努め、職員と面談する時間を作っている。また、家族等に運営推進会議やサービス担当者会議に出席してもらい、出された意見や要望は職員間で話し合い、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会を行い、外部研修への参加時には適宜伝達講習を行っている。ホーム全体としての年間研修計画は作成されているものの、職員の段階に応じた研修計画は認められない。	○	今後は職員各自に応じた段階的な研修として、採用時研修や新人研修などの研修内容を明確化し、実技実施記録も検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県グループホーム協議会に加入し情報交換をするとともに、他グループホームとの職員交換研修をおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはできるだけホームの見学をしてもらうほか、認知症対応型通所介護を利用して職員や他利用者との馴染みの関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、主婦の大先輩としての利用者の生活歴や経験を活かし、様々な場面において支えあう関係を築いている。また、畑仕事をともに行う中で収穫の喜びを分かち合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で思いや意向の把握を行い、介護計画に反映させている。職員の共通理解が図れるように、思いを記録した介護計画は業務日誌に綴じている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の個別介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会で計画内容について検討しており、モニタリングを3ヶ月に一度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護サービスや各科通院支援、自宅への送迎を行っている。また、家族宿泊時は食事や入浴等のサービスを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にし、サービス利用前の主治医のままである場合もあり、必要時は協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際は家族と話し合い、協力医療機関や関連福祉施設への転居としており、終末期に向けた対応はしない方針である。方針についてサービス利用時に口頭説明は行っているものの明文化しているとは言い難い。	○	重度化や終末期の対応をしない場合でも、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、サービスの利用開始時に退所基準等の方針を文書にて明確にされることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はミーティングや職員会議の折に言葉かけや対応について注意を促し、職員は排泄介助や様々な支援場面で利用者に対して配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、畑仕事や散歩等その日の気分に合わせた支援ができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳を能力に応じてしてもらい、職員も同じテーブルにつき介助をしながら和やかな雰囲気の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はしているが、畑仕事後のシャワー浴などについては利用者一人ひとりの希望に応じてその都度清潔支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食事準備をはじめ掃除や洗濯などの様々な家事を行い、それぞれの役割を楽しんでいる。また、買い物ついでドライブや畑仕事で気晴らしを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど日常的に屋外に出るほか、老人会行事への参加や法人内施設への行事参加を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、家族や地域関係者の協力のもと定期的な訓練を行っており、近隣の法人施設への協力依頼もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士から食事内容についての指導をもらっており、食事形態も必要に応じて変えている。摂取量や水分摂取量の個別記録もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感のある明るい家庭的な室内で、利用者が各々安らげるソファが並べられてあり落ち着いた雰囲気の中でそれぞれの時間を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒やテレビ、仏具、趣味の品など利用者の馴染みの道具が持ち込まれており、心地よい空間となっている。。		